

平成 24 年度 生産実習成果報告書

実習生 建築工学科 3年 04037 内林優太
実習先名称 株式会社アサヒ (八雲コートハウス新築工事)
実習期間 平成 24 年 8 月 27 (月) ~ 9 月 7 日 (金) [10 日間]

1. 実習の目的及びテーマ

1. 建築現場を実習体験することにより施工管理の重要性を理解する。
2. 社会人としての自覚。(挨拶、コミュニケーション「報・連・相」、時間厳守)

2. 実習内容

品質管理・工程管理・安全管理(・原価管理)

2-1. 朝礼

朝礼では、ラジオ体操、作業内容の確認や安全確認を行う。ラジオ体操は、作業開始前に行う準備運動で安全に作業するためである。作業内容の確認や安全確認は、現場にいる人たちの安全意識を持たせるためにおこなう。

2-2. 現場周辺掃除

現場周辺掃除では、騒音などにより隣人の人たちに迷惑をかけているので、それらに対する配慮のために行う。

2-3. 現場内掃除(整理整頓・足場補強)

現場内掃除では、ごみ(木くず、釘、金属片など)によって、ケガや作業の邪魔になったり、車のタイヤがパンクすることがあるので、安全のために行う。

整理整頓や足場補強では、作業がしやすいようにスペースを確保したり、安全に行えるようにするために行う。

2-4. レベル調査

機材を使い、基準点と測定点からの値の差を出す。これは、採掘作業時にできる土を撤去するのに必要なトラック・人の数を出すために行う。

2-5. 職人の作業補助

職人の補助では、セパレーターに付着しているガスファルトの撤去や型枠製作補助、型

枠建込補助などがある。職人が仕事を進めやすくするために行う。

セパレーターに付着しているガスファルトの撤去作業は、型枠組立時に職人がスムーズに行えるように先に作業を行う。型枠製作補助は、コンクリートの打ち放しの仕上げに変化させるために型枠に木の板(杉板)を張り付ける作業である。これは、型枠を取り外すとその部分に木目がつく。型枠建込補助は、職人の人数が足りない時などに手伝いをする。型枠を建て込む際に隣の型枠との間に隙間ができるので型枠取り外した後にその部分がおかしくなるので大切な作業である。



写真 1: 型枠建込



写真 2: 型枠製作(杉板付け)



写真 3：サッシを入れるために型枠の内側に木を入れ段差を作る。

2-5. 鉄筋の配筋調査

配筋調査では、躯体図を見て鉄筋の配筋量、間隔、あき、かぶり厚さ、重ね継手の長さなど決められたとおりになっているかを調べ行う。構造設計で配筋の仕方決められその通りに配筋する。

3. 実習の成果

3-1. 品質管理

品質管理としては、まず現場内掃除をすることで型枠を建て込む内側にあるごみをとることでコンクリートを打設した後に不純物が入らないようにする。不純物が入ることで品質に影響が出ることもあるので必要な作業である。次に鉄筋の配筋調査では、配筋量、間隔、あき、かぶり厚さ、重ね継手の長さなど決められたとおりにないければ品質に影響が出るので必要な作業である。また、配筋を間違えて多く入れると必要な分の鉄筋が足りなくなり、余計なコストがかかるので原価管理にも影響が出るので大事な作業である。

3-2. 工程管理

工程管理としては、現場監督と職人の代表者がお昼前に今日の進み具合や明日の作業について話をし、次の段取りを元々決めていた工程との修正を行う。現状の進行状況を発注者に報告することは工程管理での大事な作業である。現場を整理整頓することで職人がスムーズに作業ができるようにすることでも

工程管理となる。また、工程が遅れると原価管理に影響ができるので工程管理は大切な作業である。

3-3. 安全管理

安全管理としては、朝礼で行うラジオ体操や作業内容の確認を行うことで安全の意識させることが安全管理の作業である。また、現場内掃除で出る釘などによって、ケガをすることがあるので掃除も安全管理の大事な作業である。そして、現場内を整理整頓することで作業スペースを作るだけでなく、移動に必要なスペースを作ることができる。このスペースがあることで不安全行動を減らすことができるので必要な作業である。また、足場を補強することでも不安全行動を減らすことができる。



写真4：現場実習終盤状況

4. 感想・謝辞

実際現場で作業したのは8日間であるが、一つ一つの作業にはそれぞれ大事な役割があり、現場監督としての作業が思っていたよりも多く感じた。また、発注者や職人の意見を聞きつつ決められた工程どおりに進めることは大変だと思った。

今回の経験を活かして、今後の進路ややりたいことを決めたいと思っています。このような貴重な経験をさせていただいたことを有り難く思っています。